

市民が集まり、憩い、楽しめる緑豊かな場所にいたしましょう



森の中の高知駅



高知を愛する皆様へ（「お知らせ」令和5年2月号）

令和5年2月1日

大寒入り（1月20日）して以来、冬本番の寒さですが、お変わりありませんか。
1月15日（日）の共同活動日は、曇り空ながら最高16度・最低10度というウソのような
温かさで、駅南口電停脇「みんなの庭」に9人の方々が参集、賑やかな初仕事日でした。

2月の活動日は19日（日）09:00～10:30です。（3月は12日の予定）

.....

〇トピックス：

- 1月13日（金）、高知市みどり課を訪問して新年ご挨拶かたがた、今年の活動予定を報告しました。駅前の仙台屋桜植樹計画については、特に進展がないようでした。
- 1月に撮影した駅前の写真をお届けします。↓



菜の花が咲きました(黄)。パンジー(橙)、水仙も咲き始めています。
セントポール(白)も元気です。

15日の作業風景。緑の絨毯はホトケノザです(左の写真にも)。

.....

駅前緑化活動はご賛同の方々のご厚志で維持されております。引き続き皆様のお力添え（花苗持ち寄り、勤労奉仕、ご寄付など）をお願い申し上げます。

♥森の中の高知駅♥

幹事連絡先：〒780-0042 高知市洞ヶ島町1-11

中田昌志 携帯電話：090-8849-3651 E-mail：m.nakata1941@gmail.com

公文敏雄 携帯電話：090-7016-3743 E-mail：kumont2@yahoo.co.jp

ホームページ：<http://mori-kochi-eki.jimdo.com/>（バックナンバー掲載）

取引銀行：四国銀行よさこい咲都支店「森の中の高知駅 ナカタマサシ 代表中田昌志」名義 普通 0709695

屋上で楮（コウゾ）を栽培

— 高知市江ノ口の製麺所 —



大きなプランターに苗を植え付けました。



成長が早く1年余りでこんなに大きく。

「森の中の高知駅」のボランティア仲間Kさんは、ご自身が経営する製麺所（高知市江ノ口）の屋上で、和紙の原料コウゾを育てています（上の写真=Kさん提供）。

きっかけは、梶原町で和紙工房を営んでいる友人ロギール・アウテンボーガルトさんからの声掛けでした。コウゾを通じて、高知県が誇る土佐和紙の伝統文化を皆に知ってもらえたらという、ロギールさんの熱い思いに動かされたそうです。新年早々の収穫は梶原に届けましたが、ゆくゆくは、友人や児童を呼んで和紙作りのワークショップ（体験作業会）を催したいと、夢を膨まらせています。

まちなかでコウゾは滅多に見られませんが、校庭、路傍の植え込み、ビルの屋上、家庭の庭先などでごく普通に育てられるようになってほしいのではないのでしょうか？ 丈夫であり手がからないし、何より土佐の文化ですから。

Kさんによると、オランダ人ロギールさん（右写真）は、母国で製本の仕事をしていた20代に日本の和紙に出会い感動して来日、各地の工房をまわって和紙作りを修行しました。1992年からは、紙に欠かせない清く冷たい水に恵まれた天狗高原の麓梶原町に定住、原料のコウゾ、ミツマタの栽培から和紙にいたる一貫作業に精出しています。磨き上げた職人芸と、若いころ学んだ美術の才を活かした独特の作品が評価され、高知県の「土佐の匠（たくみ）」に認定されました。梶原町に縁のある建築家隈研吾さんとのコラボ（共働）も試みています。日本の森と自然を愛し、東日本大震災の被災地復興に尽した故 G. W. ニコルさん（本誌令和2年9月号で紹介）とも親交があったそうです。



紙を漉くロギールさん。（日本人の奥さんと切り盛りする紙漉き体験民宿「かみこや」HPより）